

博士論文審査要旨

申請者：小澤茂樹

論文題目 上下分離に起因する鉄道貨物輸送問題の一考察

審査員 根本敏則

山内弘隆

長岡貞男

本論文は、鉄道貨物輸送に関わる線路利用について、主にヨーロッパの事例との比較分析を通じ、上下分離の構造、線路使用料、ダイヤ調整への政府の関与などから分析・考察したものである。第2章および第3章では、鉄道における上下分離の分類を行った上で、我が国の鉄道貨物輸送に関わる上下分離では、旅客会社が線路を優先的に利用できる仕組みになっていることを確認した。第4章および第5章では、効率的な線路利用を実現させるプライシング理論をレビューするとともに、ヨーロッパにおける線路使用料との比較分析を行い、我が国では線路使用料が高額だからではなく混雑が存在するため貨物会社にダイヤが配分されず、このことは線路の効率的利用の阻害要因になりうることを指摘した。その確認のために、第6章では、ケーススタディとして名古屋付近の旅客列車、貨物列車の線路利用市場を再現し、現状のダイヤ配分では死荷重が発生していること、混雑料金を課せばより効率的な線路利用を実現できることを明らかにした。第7章では、ダイヤ調整に対する政府の関与の必要性やそのあり方について考察した。

本論文について、先ず評価すべき点は、ヨーロッパの状況を詳細に調査し、その上で我が国の鉄道貨物輸送に関わる線路利用の問題点を考察していることである。数回に渡る実地調査では鉄道に関係する企業や行政機関に留まらず、ヨーロッパの鉄道政策に影響を与えた交通経済学者に対する聞き取り調査も実施した。我が国についても詳細な聞き取り調査が行われており、筆者が理論と現実との結びつきを意識しながら、分析や考察を行っていることは評価できる。また、線路利用に関する混雑や混雑料金の特徴を分析し、現存する混雑区間を再現し余剰分析を用いて効率的なダイヤ配分を検討している。今回開発した分析モデルにはいろいろな工夫がなされていると言ってよい。本論文は、鉄道貨物輸送に関わる線路利用に経済学的なアプローチから分析・考察を行い、線路使用料の設定に混雑の要素を加味すること、ダイヤ調整に政府の関与が必要なことなど、我が国の今後の鉄道貨物輸送政策に対しても有益な示唆を与えている。

もちろん、本論文にはいくつか問題がある。特に6章の実証分析はいくつかの強い前提・仮定のもとになされている。その中でも、ケーススタディで当該区間の当該時間帯の需要曲線や費用曲線が推計されていない点が問題として指摘できる。また、事例紹介に重点が置かれ、経済理論を用いた考察が不十分な箇所がいくつか存在している。更に、詳細な調査が行われているものの、ヨーロッパの線路使用料の算定基準となる個別要素費用は明示されていない。しかし、これらの問題は今後十分に解決されると期待できると共に、本論

文の価値と貢献を大きく損ねるものではなく、今後の研究課題として考えるべきものである。

以上の理由から、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の著者が一橋大学学位規定第 5 条第 1 項の規定に準じた取扱により一橋大学博士（商学）の学位を受けるに値するものと判断する。